

三十三回忌法要 表白

それ おもんみれば

三界は安きことなく 諸行は無常なり

盛んなるものは遂に衰え

生ある者は必ず死に帰す

ことに 死の縁無量にして

人の命のはかなきことは

夢まぼろしの如し

こころを以て

阿弥陀如来は

苦悩の衆生を哀れみて

大悲の本願をおこし

南無阿弥陀仏の名号を与えて

われらを救いたもう

しかれば則ち

遺族とともに有縁の人々

愛別離苦の涙のうちに

人の世の無常を觀じ

亡き人をしのびつつ

深く仏法に歸依すべし

ここに本日

釈の三十三回忌に當り

恭しく仏前を莊嚴し

懇ろに妙典を讀誦して

廣大の仏恩を謝したてまつる

願わくは 大衆もろともに

如来の願力を仰いで

称名念仏怠りなく

當来には安養浄土に往生して

俱会一处の妙果を証せんことを

敬って 白す